

20年2月分

経営計画発表会

今年に於て2月1日迄に10社の経営計画発表会に出席しました。どの会社でも感動が有りましたが、このうち数社の発表会の内容を紹介させていただきます。
(株)徳倉様では、まず社長が経営方針を発表する前にスクリーンに古代エジプトで「ピラミッド」を建造している労働者の絵を映し出し、3人の労働者に「あなたは何をしているのですか」と質問した。1人目は「みればわかるたろ石を運んでいるんだ」と答へ、2人目は「ピラミッドを造っているんだ」と答へ、3人目は、ニコニコした顔の労働者が「ピラミッドという歴史に残る建造物を造るのに携わっているんだ」と答えたと言明し、徳倉の全社員が何のために会社で働いているのかということをわかりやすく説明しようとしている努力が伝わってきました。

保険サービスシステム(株)では、発表会の後の懇親会で私は隣にすわった2人の人に「なんでこの会社に入ったの」と質問した。この会社の理念が気に入ったからですという返事でした。保険サービスの理念は「ベストアドバイスルール」です。とても短かい言葉で会社が何を目指しているのかわかりやすく表現されたすばしい理念です。大企業である保険会社に勤めていたときは、入社後会社の資産額や規模、契約数等いかにかに自社がすばしいかという教育を受け、配属後は、会社の指示する商品をお客様の立場でなく、会社の立場で売らされていた。たかどお客様が損することかわかっているも無理して販売していた。ところがこの会社は、「ベストアドバイスルール」なのでお客様に役立つ商品(か売ってはいけな)いことになっているので働きがいがあると話をしていました。保険サービスは、自社のよさがわかるのは、新卒より保険会社出身者なので中途採用に重点を置き、価値感の共有をはかっていると橋本社長は言っていました。

(株)エイコー様では、社長、幹部の発表、会長講話、やさしく、わかりやすかつた。その様子を乾杯の挨拶をされたみずほ銀行笠原支店長が用意された原稿を讀まざり感じたことをメモしたものを話されしていました。暖かい、元気、活気がある、一体感がある等、たつたと思ひます。私も発表会懇親会を通じて役員、社員間一体感があり、今期の目標達成に向けて全社員が一丸に於てやるんだという決意が十分に伝わってきた感動的な発表会でした。発表会の中で表彰のため社員の名が呼ばれ、社員の「ハイ」の返事の音が小さいと、会長、社長、役員が何度も繰り返して「声が小さい、もっと大きな声で」と繰り返し、繰り返し注意されていました。見事です。教育は繰り返すこと積み上げられていくものですが、それをトップがどんなときでも実践しているのは、並派です。鈴木自工(株)様では、若い整備士が名前を呼ばれると大きな声で返事をし、早足で表彰のため壇上に行くのですが、来ぬんの紹介ではホンダ、日産、トヨタ、スズキ、東京海上損保ジャパン等一流企業の責任者が名前を呼ばれても返事せず、何度も鈴木社長が「もう帰ったのか」と言われた後で壇上に上がったのを見て、この人達は、ハイと返事すればいいことがわかるのに何故返事しないのか、空気の読めない人達だと思ひたわけです。ハイという返事は、相手や回りの人達への思いやりです。私は、ハイという返事を日本人がもっと使い、返事をしてない人は自己中心、思いやりのない人、返事をする人は、人様に迷惑をかけない思いやりのある人と定義してもよりのではなから思ひています。

左田上 満